

新教育課程用教科書執筆にあたって

実教出版では新課程用教科書といたしまして、平成16年度にも新刊を発行いたします。是非ご覧ください。

最新の研究成果・読みやすい文章の 新課程用 歴史教科書

ビジュアルで応用のきく
世界史A

詳細で新しい
世界史B

世界史を楽しく学ぶ
16年度新刊 高校世界史B

自ら学び、考える
高校日本史A

充実した内容・ていねいな解説
16年度新刊 日本史B

なぜ?の視点から歴史を学ぶ
16年度新刊 高校日本史B

身近な事例・わかりやすい 新課程用 公民教科書

平易な記述と高い視覚効果
現代社会

的確な記述と豊富な事例
高校現代社会

基本から受験まで対応できる
16年度新刊 倫理

ていねいでわかりやすい
政治・経済

最新の動向をフォロー
16年度新刊 高校政治・経済

高校世界史B

愛知大学助教授
三好 章

地球規模での人類の歴史を考えさせようとするのが、新課程の最大のねらいであろう。

本書は、「世界史」という科目を親しみやすく教授しようとする先生方と、またより詳しく勉強しようという生徒たちのために編集された。B5判であるため、図版を多くかつ大きくとることができた。特に、本書冒頭のグラビアページは、世界史で学習する世界各地域について、図版を利用しながら歴史を踏まえてその気候風土を述べている。授業の導入や、またしばしば戻って地域の状況を確認する際に利用していただけるよう考えられた部分である。

また、本文中の図版については大幅にカラー印刷を導入し、ビジュアルな面からも世界史の理解を容易にするよう心がけた。さらに側注およびそこに記された補説、関連事項年表は、本文の補足や学習を深めるための手引きと考えていただきたい。

新指導要領では、「世界史へのとびら」を設けることが求められ、本書でも「世界史における時間と空間」、「生活の中の世界史」、「日本と世界」の3つのテーマを、4項目に分けて記した。その中から適宜選択して学習することになるが、何れも身近な部分から世界史を考えるという点から出発した。これは、本書全体の出発点でもあり、初学者である高校生に、いかに「世界史」を身近なものとして理解させるか、から本書のすべてが始まっている。

本書の全体はオーソドックスな4部構成。細部に関しても、旧課程の教科書で指導に当たられてきた先生方にも、違和感なくご利用いただけるようになっている。そのなかで、3つの主題学習を設け、地域を越えた歴史学習ができるように配慮した。また、第4章ではアメリカ大陸と太平洋地域とを独立して取り上げ、地域の特性をくみ取れるようにするなど、新しい研究の成果も盛り込んでいる。しかし、第10章の冒頭で扱った市民革命と産業革命のように、必要以上に理屈っぽくならないように心がけた。

現場の先生方のご批判をいただければ幸いである。

● 新教育課程用教科書執筆にあたって

日本史B

神奈川県立七里ガ浜高等学校教諭
川島 敏郎

2003年度から実施される新しい高等学校学習指導要領により、「日本史B」は著しく様変わりした。科目内容の一つに新しい大項目として、「(1)歴史の考察」が設定され、「ア 歴史と資料」、「イ 歴史の追究」、「ウ 地域社会の歴史と文化」の三部構成となっている。これは主題を設定して追求する学習を通して、生徒の歴史への興味・関心を高め、作業的・体験的な学習を通して歴史の学び方・調べ方や見方を身に付けさせることを狙いとしている。

本書では、この大項目の重要性に臨み、十分なスペースを割いて例示を試みた。例えば、アでは金石文・画像資料・歴史的建造物などを通して「資料をよむ」、「資料にふれる」を紹介し、イでは木綿の歴史、東日本と西日本、ペリー来航と情報技術革命、外国人による日本観、土地はいつだれのものか?の5項目を取り上げ、ウでは戦後の沖縄の問題を扱った。例示内容に多少の難易はあるものの、対外関係を配慮しつつ今日的な話題を素材として提供したつもりである。教育現場においても、身近な話題や身近な地域に残存する歴史資料を取り上げ、博物館・民俗資料館や情報機器なども有効に活躍しつつ、多面的・多角的な歴史の学び方・調べ方を養成してほしいものである。

また、新学習指導要領では世界史的な視野に立脚して総合的に日本史を理解させることが強調されている。そのため、各時代に互い、東アジアや世界情勢の動向とも関連づけて叙述するように配慮した。とくに、国際的な関係が緊密となる近・現代史の分野、中でもとりわけ戦後史は大幅にページ数を増やし、ごく最近の小泉政権下の事項までを扱っている。

さらに、先生方から寄せられた貴重なご意見を採り入れ、古墳の成立と発展、荘園公領制の形成と武士団、中世・近世の文化史などの部分においては、新知見を盛り込むとともに従来の枠組みを多少変更した。今後とも、忌憚のないご意見・ご感想やご質問をお寄せいただければ幸いである。

高校日本史B

明治大学非常勤講師
渡辺 賢二

新しい学習指導要領によって、「日本史B」の内容は大きく変化し、「歴史の考察」を取り上げ、資料を読んだり触れたりすること、さらに「歴史の追究」として時代を区切らず、歴史的な見方や考え方を記述することになった。本書では、「暗記」の学習から脱皮し、歴史的な見方や考え方を、体験的・作業的な学習を通して身に付けるため、十分な分量をとって例示した。

例えば「高校生の歴史探求」として、縄文時代の犬はなぜ埋葬されたのかという謎を、討論や現地調査・博物館訪問などの学習を通して解明していく方法を示している。また「歴史の追究」として「狛犬の歴史」「木綿の普及と生活の変化」「朝鮮通信使と冊封体制」「日本列島の地域格差」「法律と納税の歴史」の5つのテーマで、身近な歴史に関心をもち、そこから歴史の重さや真実を追究していく方法を示している。こうした例示を参考に、年間を通して調べまとめる取り組みを展開することを期待する。

本書は、日本の歴史を原始・古代16節、中世11節、近世19節、近現代44節で構成し、各節の名称を「日本の旧石器時代」「中世社会の土地制度」「大航海時代の余波」「開国と社会の変動」「戦後世界と日本」などと歴史の流れが分かる記述とした。同時に「日本列島にいつから人が住みはじめたのか」「荘園公領制度はどのような制度か」「鉄砲とキリスト教が日本に与えた影響はなにか」「黒船は幕藩体制をどう揺るがしたのか」「占領政治に日本はどうかかわったのか」などのサブタイトルを付け、生徒が何を中心に学習するかという課題を設定した。さらに、各節には「歴史のまど」を設けた。歴史の教科書と言えば、歴史研究の蓄積を記述するために、歴史の事実を網羅的に羅列することになりやすい。こうした教科書の宿命が、生徒にとって「歴史は暗記」と考える一因となる。そこで少しでも生徒の目線に学習するために、歴史的な事件や人物の具体像に接近する試みとして設けたのが「歴史のまど」である。

新課程用教科書執筆にあたって ●

倫理

東京都立青梅東高等学校教諭
本間 恒男

生徒が日常の中でふと立ち止まって、自己の在り方生き方を考える「きっかけ」を作りたい。そんな思いで倫理の授業を日々行っている先生方にとってこの教科書がそのお役に立てれば、と願って編修・執筆にあたった。本教科書において、その「きっかけ」は本文のみならず、挿絵や引用やさまざまなところにちりばめられているはずである。

まず教科書をめくってみていただければそれがすぐにわかるとおもう。口絵や欄外の部分に多くの個性的な芸術作品や引用の文を見ることができるであろう。それは教師の側からもまた生徒自身も、自由に感じ、考え、あるいは「きっかけ」を与えるものとなるであろう。

新学習指導要領では、よりテーマ性が強く打ち出され、生徒の主体的な学習を促すことが求められている（「現代の諸課題と倫理」）。また、順番としては日本の思想（「国際社会に生きる日本人の自覚」）が源流思想（「人間としての自覚」）の後におかれることによって、それを従来にまして重視することが求められているといえるであろう。本教科書はその点に配慮して、課題学習の手引きをおいた。その上で現代のさまざまな新しい課題を投げかけ、その先を生徒が自ら探求する学習へとつなげるように工夫をした。また、旧版からも日本思想の記述は比較的詳細な記述であったが、それをさらに充実し、わかりやすいものにした。

見開き2ページで一つの学習項目が完結するようにしたレイアウトも旧版を受け継いだものだが、現在の生徒にとっては学習しやすく親切なものであろう。またそれと関連して、旧版では精選・厳選という流れからそれを意識したものになっていたが、今回はむしろ、生徒の受験にも十分対応できるものにしてあるはずである。もちろん平易で丁寧な説明を心がけたことはいうまでもない。

この教科書で一人でも多くの生徒がその「きっかけ」を見つけてくれることを願ってやまない。

高校政治・経済

埼玉県立朝霞高等学校教諭
新井 浩

この教科書の編修に参加するにあたって、安心してつかえるオーソドックスな構成でありながら、それでいて生徒を授業に引き込むような斬新な仕掛けが秘められた教科書ができればいいな、と考えた。

いま、完成してきて、特に強調したいのは、

- (1)センター試験・2次試験に対応できるハイレベル、かつ最新の動向までフォローした記述
- (2)日本国憲法の精神にのっとり、平和主義、人権を重視し、経済分野では環境問題に多くのページを割いた構成
- (3)「人権」を英語に訳すと、その意味するところが「人間として正しいこと」となることを紹介した巻頭の文章に代表されるような、いわゆる教科書調とは一線を画す珠玉の文章

などである。

また、新学習指導要領の目玉となっている「(3)現代社会の諸課題」で「多様な角度から考察し、理論と現実との相互関連を理解させること」をうけて、この教科書の第3編では15のテーマを設定。それぞれ、代表的な2つの説を紹介したうえでcheck upといって生徒が調べたり、考えたりする課題を提示するといった新しい試みもしている。これは、結果的に小論文対策にもなっている。

例えば、公害と環境政策のテーマでは、生徒にもなじみ深い自動車問題を取り上げ、自動車の環境対策技術を推進する方策と、環境都市（自動車に過度に依存しない都市）を整備する方策を紹介している。

また、人種・民族問題のテーマでは、民族ごとの国家形成の考えと、多民族共生の考えを、歴史的背景にも目を配りつつ、冷戦後多発している民族紛争を思想のレベルで理解できるように記述している。

ケインズの師マーシャルの言葉に「冷静な頭脳と温かい心」というのがあったと思う。知識のカタログを超えた、執筆者の情熱と高校生への温かいまなざし、そして期待を読み取っていただければ、本教科書の編修に参加した者として、存外の喜びである。